

報告事項

101

報告先				報告者	原島 嵩
日時	52年	10月	10日	曜日	時 分

内容:

了
解
保
た
ら

原田にて 工藤氏の話
(10/8 午日講堂会議室にて 工藤、土 原田、原島)
6:30-7:30
秋山(支院長)は すばい 変わりようである 29日及び
10月1日に 導師をつとめ 大変に喜んでゐた
秋山師は 話の できる人で 芯は 固い
今回の ことで 百歩前進 である
秋山 さんが 味方となり、私(法友寺)と 寧蘭(大橋)
と が しっかり 組み、さらに 他 の 僧を 固めて いけば
北海道は 盤石 である。ここに 僧俗一致の 理想境
を 築く ことが できる
秋山 師は 昔からの 僧侶で 宗門 について は
北海道 には 権威 がある。したがって 秋山 師を 導師
として もらったことは よかった。秋山 師も 喜んで いるから
うれしかった、と、いっている。
秋山 師は さりきっている (宗門 について)。本山は
末期的 流れ である、と、いっている
(土下川が 矢島 常秀 覚、覚道 について 話した時) 矢島 常秀 覚
の あらう は 罰 以外 の 何 も の とも ない。覚道 は、恐らく

泉内において離婚第一号である。

覚道については 常楽寺時代から 親下が狂って
また元凶である。こゝからなれ合いで来ており、
親下は 覚道を信用している。

(泉内が末期的な狂壊を示すにいたった原因について)

日蓮上人の親座は短かった。その間 泉内はいろんな
方面で整ってきた。そろそろ的場のようになりたい
といったが、いい方向に向いてきた。

しかし 淳師は体が弱く、晩年静養していて
私に給仕をしていた。

淳師は臨終の前夜、血脈を今の親下に
相伝するに当って 常楽寺(高野師)に対し
~~今~~ 今後の泉内が非常に心配である。

あなたも大久保彦左衛門となつて 親下
を支えていませう。と言つておられた。

今の親下は、しゃべり、淳師にしかかかっていた
いろんな事業に手を出したり、軽はずみな行動
が多かったからである。私は当時淳師の奥番と
していたのでよく知っている。

相承をすまして 11月16日午後4時 この世を

会われた たった一人の方は 池田先生である。私に
その場にいたので証人である。淳師は 宗内のことを
何とかお慰まいしますと、切々と 池田先生の手をに
ぎらうから頼まれていた

池田先生は「私にお任せ下さい。^(母法) 親下のお心
にそって、宗内をお守りします」と答えておられた
故に、日淳上人から最後の遺言をうけた たった
一人の方が 池田先生であられる。

その時に 宗内と学会は絶対に分断してはいけ
ない、と思い、ありがたく その場にいた
そこに 成田師もいました
ところが その後 日淳上人と違う方向に行、て
しま、たことが残念である。

敬学の狂いについては 今の親下は日淳上人
の意志に反したことをやった

日淳上人は最後の「一周間 富士見庵」で
静養していた。その時のことを淳師が
亡くなって向もなく、今の親下から私に聞かずに
今の親下は 私^(に) 日淳上人は晩年というふう
本を託まっていたが、という向い合わせであった
私の一存と思われてはいけな、いと思い 奥様
にその向い合わせを確認した。

海解は小泉信三の文章がきいたといつて
枕元になつてゐた。それを報告した。すると
現下は、そんなことはない。それはキリスト教だ。
海解が読まれたのは天台の三大部だつた、と
言つた。もう体も衰弱を來ていて、そんなものは
ありませんでした。と私は答へました。

ところが、今の現下は公然の場で日淳上人
は三大部を臨終のさいに讀まれたと宣言して、
これから宗門の教学は三大部をやることと決定
してしまわれた。

日淳上人が学林を講義をされたのは、御書で
あり、御義は伝ひあり、白糸簡であつたのに
今の現下は日淳上人に反して、今して
天台の三大部を12年向かかつてやることを
宗門教学の軸にしたのである。御書は自分で
すでに終つてゐることになつてゐる。

本山には、今、教学部教授を教名つて
全員天台をやつてゐる。教授はたゞ之が早瀬
王任理書、光久、義寛等である。

阿部教学部長も個人的に言えば、それは
特許で行つてゐる、といつてゐる。

学会の教学に反して 京内には京内の教学
がある。とよく言っている。とにかく、学会のやり
方と、学会のやってないところという具合に京内
の教学はすすんでいる。

(日淳上人は今の現下についてどういふことをいわれて
のか、その向いに対して)

とにかく考えが現すがる 考えないでや、と
失敗すると 淳師は嘆かれていた。当時京内では
今の現下は信用がなかった。欠点はあるが、
現下にきく人は、学会との関係もあって今の
現下(か)れなかった。

昭和33年 大講堂の落成式。広布の模範
試験の折、貴賓室に部長以上が集まった。
その時 日淳上人は 戸田先生 か一幅の絵
がこっそり送られた。その絵には 照悟空の絵
が描かれていた。日淳上人は じっとそれを見て
おられた。その時 和泉ミヨエさんが、この巻具には
20万もかけたんじやよ。と、言った。

戸田先生は現下、前にひれ伏して まじって
参上した。戸田先生は きのあと「終、た 終、た、

と言われ帰した。とういふことが辻副会長から
 戸田先生に「指導願います」といったところ、戸田先生
 は「全^部法主様に聞いて下さい」と言われていた
 その時に、私は淳師と戸田先生との間の深い
 何ものかを感じた。

私の考えでは 戸田先生 日淳上人、池田先生
 という深いつながりを感じます

(臨終の時)

日淳上人は最後に 池田先生を呼ばれた
 小気理嘉子 は部屋のすみにいた この時に
 淳師と池田先生との峻厳なつながりを感じた。

今はその峻厳さとはどこにもない。今の現下は
 日淳上人に引き継がれている

宗内は池田先生に託されたのである その先生
 をおとし入れることで自体を引き継いでいるの
 である。

淳師は 戸田先生が理理堂にいらした時に
 サニタリーグッズを届けたたりして 心と
 心を通っていた

淳師は「いくら わし が 話した、て 久田 先生の
話 に 居 はない。 あ り 方 は ぶ つ う の 人 で はない
と ず い 分 言 わ れ た。 また 学 会 出 身 の 僧 侶
で ない け れ ば ない と も い わ れ た。
また、 学 会 の 青 年 部 に 会 う の が 一 番 う れ し い
僧 侶 は い せ だ と い 言 っ て お ら れ た。

今の 現下 は お べ っ か を 使 う そ の に は 「と どの
寺 へ 入 れ て や る。 「お 前 は オ レ を 守 ら ね ば」と
か 「と ば し て け ん」と か、 ま だ ま だ ヤ クザ の 勢 分
み たい で あ る。

今年 の 正月 を 現下 の 前 に 行 く と 「お 前 人 だ
に 何 人 集 ま っ た か」 と い っ て こ と し か 聞 か ず、
又 自 分 の 弟 子 を 他 寺 へ や る 時 「もし 招 け
ば 一 旦 4 人 ば い つ て も 帰 っ て こ い」と い っ た
言 い 方 で あ る。

小 石 川 の 現下 の 支 院 の 下 へ は 妙 観 会 が
い つ も み ん な を 集 ま っ て は い ろ ん な 情 報 を 入 れ
学 会 の 思 へ ば 文 筆 を 協 力 に い る。 い ね ば
あ ち こ ち 解 ら ぬ 事 務 所 で あ る。

妙融会の 坂井真直 はくせ者である。うっかり
引っかけたら大変である。宗門を批判した時を
必ず出方を待たず。それで何か事を起こしていきなり
とる行き方もある。また、必ずまわりから情報も
とるというやり方をする。

また 淳師の時にさるが、小梅法論の時に
淳師は、また僧侶にふりかへて、お前達が行って
うどうなったか 勝てないだろう、と言った。それ
で弟子が好まぬ。と何回も言われた。

淳師は 彼に先生に対しては 自解仙乗の
法華經の行者体得の人であると言われ
ていた。

私に。今の抱下が かなり揺ったなと思った
のは 26か条の解釈と 抱下の批駁する
方向にまえてしまったことだ。 「時、世、事、人」
といふことを 仏法に相違して己義を構え、
之を用う可からざる事」と抱下が用いて
はなすのみ、としてしまった、それでは次の
一巻に同じことあり、いふやうなことになる。

私には びっくりした。

日昇に人のことを 浮世二人にかりおかした
蓮葉庵でのこと (女性肉語^{ニギハヤ}) について 浮世は
字りぬかした。日昇に人の原稿は そのほとんど
日浮上人が書かした

今の掬下には 参考書がない。みな本当の
ことを言っている。次の座をたくみに
うかがっている。失敗した方がよいと心の中で
喜んでいる

ここまで来たら 我々で 諫言する 以外に
と 何人かと相談して 我々の個性になって
やろうとしていた。でも とうとう 48年8月の
講習会の時であった。ところがその時の
掬下のこの説法は、学会をつたはめしてい
たので、やめた。

称名寺 (坂田土庫) とて相談したところには
池田先生しかないと言っていた

★今年の8月の時の掬下は、もうめちゃくちゃ
であった。ゴロツキが三流のヤクザの軽分

と何ら変わりない 彼は論文に対して、これに
 教壇からか、学友はオレ達とは違ふ人だから
 してうかつない。その言ひうそひいれをたふし
 ものであった まるでそのことのみの講習会
 であった

菩提聖道に対しては うらでは お前が正しい
 あやまったか。本當はあやまることはない
 今はたゞまゐる。オレが仁返しをして呉
 ると言っていた

高崎の称名寺は スパルツという一番の足跡
 である 淳師の弟子は19人 あとから弟子入り
 した人を含めると28人いる

大橋(室蘭)も 淳師の弟子である

高野月深(常泉寺)も 私と学会の人と
 話し合ふことを極度にまわっていた たまたま
 ある事件があって 師匠に報告したところ師匠
 は了解した。その時に許してくれ、お前を諒解
 していた お前に一切を任せよと言った

其の人には倒れてからよくなつた。妻も、た
 以前は、森田副会長から私に先生の遺書を
 届けてくれた時に、師匠にそつていた時に
 帰してこいといふといふかた。こゝろある

以上、厚島記す。